

事例⑤ 小学6年生 Fさん

(実態把握を含んだ「個別指導計画」を活用。ステップ2から作成を始め、シート2・3を活用した事例)

《児童生徒の様子と保護者や担任の願い》

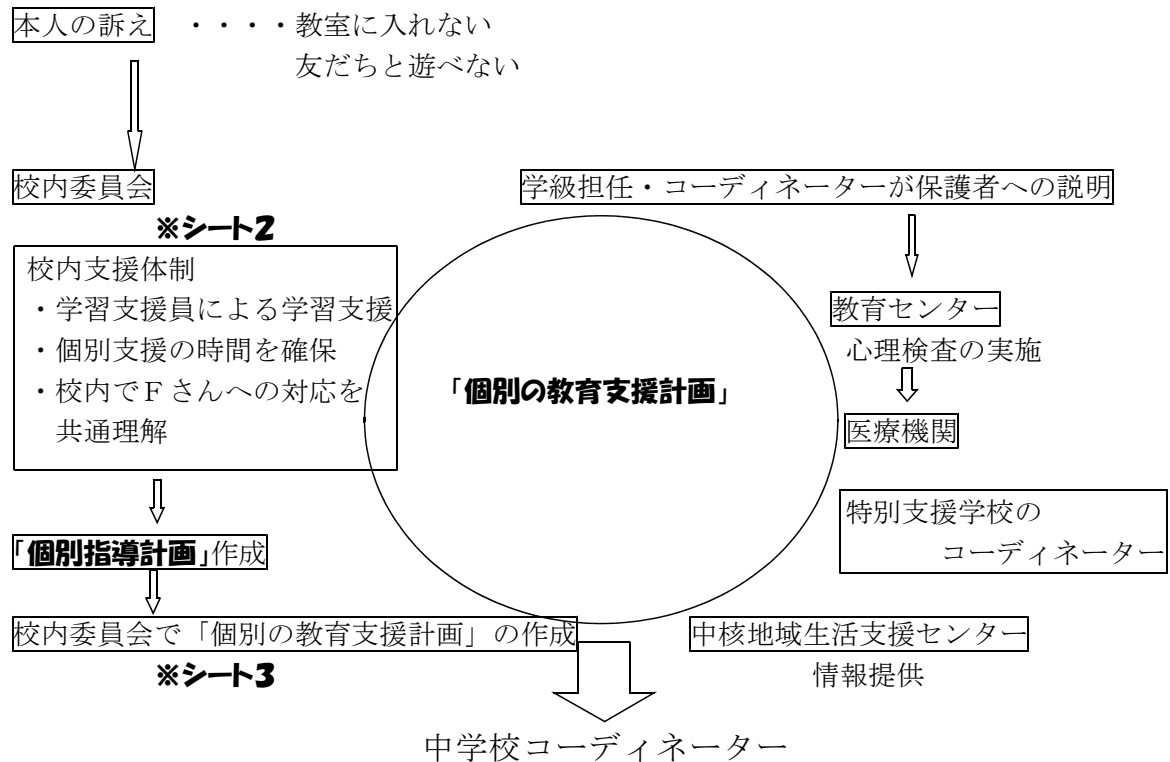
Fさんは、通常の学級に在籍している小学校6年生です。

4年生後半から学級に入れなかったことが少しずつみられるようになり、5年生の時には学校に登校できない日も多くなってしまいました。6年生からは、学級以外で過ごすこともできるように配慮したところ、学校にはほとんど毎日登校できるようになりました。

医療機関では、広汎性発達障害の診断を受けました。学習面では、漢字の書きが苦手、掛け算九九も覚えきっていないなどのつまずきもみられます。

保護者は学級に入って一緒に学習できるようになってほしいと願っています。担任としては、中学校進学をどのように考えればいいのか、将来のことを考えて今後どのようにしていけばよいかを悩んでいます。

《「個別の教育支援計画」作成までの手順》



「個別の教育支援計画」

- ・シート2(校内委員会で検討)
- ・「個別指導計画」(実態把握を含む)
- ・シート3(校内委員会で検討)